

2, 2 試験研究

2.2.1 題目 安定した黒釉の試験

寺尾 作次郎
肥後 盛英

〔目的〕 苗代川や竜門司で使用中の飴から黒までの釉は窯条件の相異特に熟成温度の僅かな差で釉の呈色に変化が生じ易いので、先づ釉の熔融点を巾の広いものに改良する目的で2、3の試験をした。

- No. 1 白サツマ原土…30杯
雑木灰…45ヶ
ワラ灰…25ヶ
前田酸化鉄…15ヶ
- No. 2 指宿粘土…35杯
ワラ灰…30ヶ
竜門司青粉…5ヶ
酸化鉄…15ヶ
酸化マンガン…3ヶ
酸化ニオブ…2ヶ

(No. 3) (No. 4)

No. 3~No. 4 前田酸化鉄…15杯 20杯

- 松木灰…30ヶ 40ヶ
ワラ灰…25ヶ 20ヶ
加世田白土…30ヶ 40ヶ

- (No. 1) S.K. 10番酸化焼成で垂下状鉄砂系となる。S.K. 7~9番に適し白、黒生地に共に良く特に黒生地抹茶碗に良好。
- (No. 2) S.K. 7~9番還元焰焼成で漆黒色を呈し釉調最も美しい。
- (No. 3) S.K. 10番焼成の結果釉は流動して黒色を呈し試験体の突起面は赤紫色の結晶斑を生ず。
- (No. 4) 黒生地に施しS.K. 7~10番で焼成したが何れも漆黒色で貫入なく充分使用出来る。

2.2.2. 題目 改良ソバ釉の試験

寺尾 作次郎
肥後 盛英

〔目的〕 苗代川で従来使用中のソバ釉の基礎となつている「バン」の代替として含鉄鉱物を配合して試験を行った。

番号	1号	2号	3号	4号	5号	6号	備考
草牟田土	50	50	50	50	55	60	数字は「杯」 含鉄鉱物
桜島熔岩	20						
竜門司青粉		20					
苗代川 2級バン			20	10			
同 黄砂				10			
真幸黄土					15		
大口鉱山黄土						10	
呈色	褐色 垂下状	飴色 流下状	褐色 流下状	黒褐色 流下状	青ソバ系	黄褐色	

(以上に何れも雑木灰30杯使用、焼成温度S.K. 9番強) 結果は5号が最も良く1号・3号は充分使用出来る。

〔目的〕 竜門司焼の三彩用緑釉はその基礎釉の組成については一応の結論を得たが、銅呈色の変化が著しいので発色剤の安定した配合割合を決定するために試験を行った。

2.2.3. 題目 三彩用緑釉の試験

寺尾 作次郎
肥後 盛英

品名	調合率 %	A	B	基礎釉
黄銅 (真鍮)	銅 67 亜鉛 33	6 %	8 %	100に対し
青銅 (砲金)	銅 90 錫 10	◇	◇	◇
青銅 (鐘銅)	銅 80 錫 20	◇	◇	◇
像銅 (銅像地金)	銅 85 錫 10 亜鉛 3 鉛 2	◇	◇	◇
ニッケル青銅	銅 85 酸化ニッケル 15	◇	◇	◇
洋銀	銅 55 ニッケル 20 亜鉛 25	◇	◇	◇
アルミニウム青銅	銅 90 アルミニウム 10	◇	◇	◇

基礎釉配合率…雑木灰36% 竜門司岩(天草石系)10% 久保野土30% 粗穀灰24%

試験は黒生地に白化粧した径7寸の中皿に基礎釉(透明釉)をかけ上記7種の調合物を平筆で塗り分け登窯2の間の押へ上に置きS.K. 8番で中性焰焼成をした。

発色度の優れたものを示せば第1位は黄銅のB、第2位はアルミニウム青銅のB、第3位は洋銀のAであった。

次に白素地の小杯に1位より3位迄を稍厚目に塗布し酸化炎焼成をしたが前回より良い青緑釉を得た。

[指導・その他] 業者指導…9 小・中学校指導…13校
その他市内在住主婦11名に特別に希望があつたので花瓶・皿等縄文式成型手法を指導した
見学者…232名

2, 3 試作並に指導

[試作] 今年度は大素焼2回、本焼2回行つた、試作品431点。サヤ…260個

○ 陶像噴水の試作

川内市より土地の呼称として云い古ざれて来た河童をテーマに噴水像製作の依頼があつたので、構想をまとめて台座まで全部陶器で作製することを試みた。初めての大型陶像であつたため苦心もし焼成上の失敗等もあつて一部難がないとも云えないが将来参考になつた。

河童は無邪気な子供の座像とし釉趣の異なる3体で台座上に背中合せに配置し、台座は五段重ね総体16個を組立てた。

噴水陶像の総高約2米のものである。

○ 東郷元帥墓地碑の試作

かもめ会より多賀山の墓地に伊藤正徳氏の碑文を陶器で記念碑試作の依頼があつたので鹿児島市工芸研究所と協議設計の上共同試作をすることになり試作分担をきめて期日迄に完成した。